



修復前 before restoration



修復後 after restoration

木島櫻谷筆「かりくら」
“Hunting” by Konoshima Oukoku

掛幅 絹本著色
右幅 縦 251.0 cm 横 173.8 cm
左幅 縦 250.0 cm 横 173.8 cm
明治時代 1910 年
櫻谷文庫 京都

Hanging Scroll, Color on silk
Right 251.0 cm × 173.8 cm
Left 250.0 cm × 173.8 cm
Meiji period, 1910
Oukoku Bunko, Kyoto

木島櫻谷（1877～1938）は京都生まれの日本画家。徹底した写生を行い、透徹した自然観照と叙情あふれる画風で明治後半から昭和初期にかけて活躍した。

「かりくら」は第4回文展で3等を受けた作。題名は狩猟場、あるいは狩りの競争を指す。縦2.5mという巨大画面に、疾走する3人の狩人が描かれる。その表情もさることながら、写実的で躍動感のある馬の表現に動物画を得意とした櫻谷の真骨頂をみることができる。なお、本作は、櫻谷最大級の作品ながら、長年所在不明であった。

出品後に表装を解かれ、裏打ちすらない状態（「まくり」）に加え、長年巻かれた形で露出していたため、折れ、虫損、汚れなどが目立ち、白、緑、黄色などの顔料を中心に、剥落や亀裂が広がりつつあった。2年をかけて修復が行われ、左右2幅対の掛軸装に仕立てられた。

※ 30 年記念展覧会展示